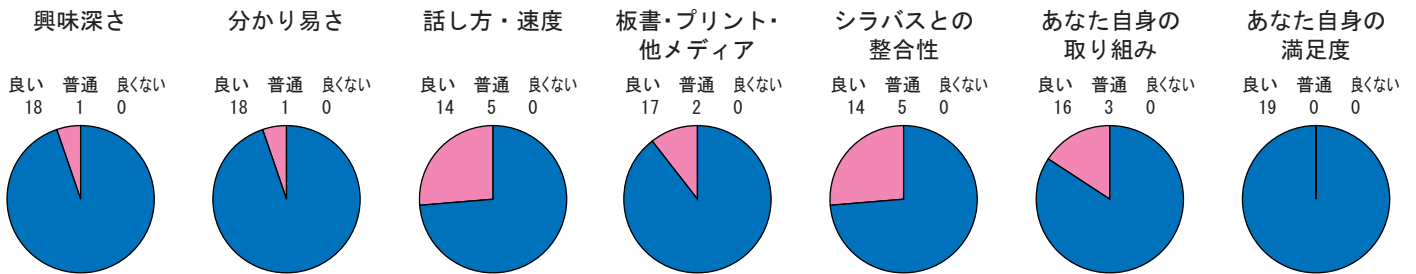


平成15年度1学期 生物学類授業評価

「動物分類形態学臨海実習」

回答者数：19名 履修申請生物学類生数：30名 (回答率63%)



良かった点

- ・今まで見たことも無い動物を観察できた。講義の内容も良く、観察のポイントや、動物群の系統関係についてわかりやすく解説された。発光生物の観察は神秘的で、とても感動的だった。
- ・見たこともない動物が観察できた。
- ・忙しくてやりがいがあった。講義が非常にわかりやすかった。この実習へ行けば普通の動物系統分類学・は必要ないと思ったくらいままとまっていた。
- ・この実習は本当にいろいろな生物にめぐり会えて最高です。
- ・プランクトンネットを自分で引く経験ができた。ひたすら観察ができる。とにかくおもしろい！！
- ・とてもよい経験ができたと思っている。有意義な時間が過ごせてうれしかった。
- ・開始日に下田で見られる動物群を全て説明していただけたのが理解に役立った。冊子が良い。濃密なスケジュールだった。種名同定作業の大変さと、いまだ未登録、未同定である生物の多さを、実感を持って知ることができた。
- ・一日中観察に没頭できた。
- ・先生方と大変貴重な話をする機会があり大変良かったです。
- ・全体を通しわかりやすく、実習後も身についたものが生かされ大変いいものであった。

改善すべき点

- ・特になし。
- ・観察をするときに顕微鏡の数が少なかった。
- ・連日連夜頑張るのは楽しくてよいのだが、その後通常の生活に復帰するのが難しい。せめて最終日の翌日を土日に合わせて欲しい。
- ・特になし。
- ・特にありません。

担当教官のコメント

- ・担当教員の親切で丁寧な指導に対して、受講者から大変よい評価を得ることができたことをうれしく思います。
- ・この実習では、ガイダンスと実習初日の講義で、この臨海実習に最も理想的な日程を選んでいること、それは人間の都合ではなく、純粋に実習の観察対象となる動物の活動に合わせて選んでいることを毎年必ず説明しています。この実習日程の決め方は正しいと信じています。15年度の場合、このようにして決めた日程が、たまたま木曜日に終わる日程になりました。対立候補の日程は日曜日に終わるものでした。実習では体力を消耗しますから、実習終了後なるべく早く週末を迎えられる方の日程案を採用したのです。ご理解ください。
- ・顕微鏡数の不足を指摘されていますが、これは底曳網採集の日の双眼実体顕微鏡の数のことでしょうか。みなさん大変熱心に観察をしているので、この点については改善すべきであると認識しています。今後、可能な範囲で対応を図ります。ただし、ルーペなどで十分対応できる観察対象もありましたから、必要に合わせて適切に機材を選ぶことを徹底する必要もあるのではないかと思います。
- ・多くの受講者に良い評価をいただき、今後もこのような評価をもらえるよう努力したい。
- ・実体顕微鏡の数が不足していますので、少しずつでも台数を増やします。より良い観察ができ、より深い理解ができるようサポートに努めたいと思います。